



## 50年水害

痛ましい事故も



集中豪雨の影響で決壊した道路

台風6号と寒冷前線がもたらした集中豪雨により、昭和50年は二度にわたって大被害を受けました。

8月23日、置戸の雨量は199ミリに達し、この雨の影響で道路決壊13カ所、豊住四号橋等橋りょう流失5カ所・破損5カ所、河岸災害34カ所、家屋流失1戸、床上浸水44戸、床下浸水157戸の被害を受けました。また、避難90世帯、農作物被害は約18億円に上りました。

常呂川の水かさは24日には警戒水位を大きく上回る2.14メートルとなり、茶褐色に変色した川水は林友一北農一若木一宮下の低地に流れ、家屋は水浸しとなりました。勝山では5,000平方メートルにわたって土場がえぐりとられ、丸太やせっかく育っていた養殖のヤマメが全部流失してしまうなどの被害がありました。

大正11年以来、実に53年ぶりと言われた大水害からわずか半月足らずの間に、またも低気圧による集中豪雨に見舞われました。雨は9月7日より

時折降り、8日、9日と続いて総雨量は108ミリと極端に多くはなかったものの、勝山では2時間で67ミリと雨量強度が大きかったため、小河川の氾濫が続出しました。災害対策本部の記録によると、家屋床上浸水62戸、床下浸水167戸、農業関係土地・作物流失等推計被害1億3,395万円、その他農道等合計被害額は8億536万円と推定されました。また、池北線の列車が運休したり、境野小が臨時休校するなどしたほか、集中豪雨の後遺症とも言うべき災禍で、一家の大黒柱が溺死するという痛ましい事故がありました。この二度の雨で、国道242号線の秋田方面から舗装道路伝いに流れてきた雨水と、裏山からの水で2,100平方メートル、深さ最高4メートルの沼ができ、この排水作業をしていた方が足を滑らせて溺死したもので、二回にわたっての豪雨は、貴い人命までも奪うという悲劇を生みました。

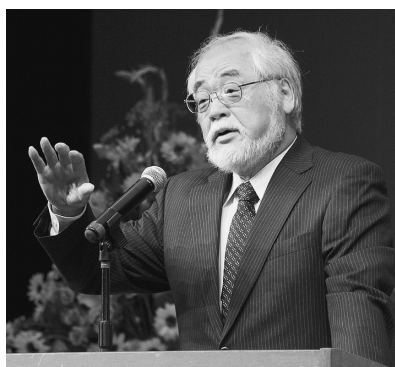
(参照：置戸町史下巻)

### 地域交流協定締結記念

## 札学大が置戸で学術講演会

札幌学院大学の第38回学術講演会「講演と音楽の夕べ」が9月19日夜、中央公民館で開かれ、町民ら約180人が、鶴丸俊明学長の講演とヴァイオリニスト大平まゆみさんのコンサートに耳を傾けました。

考古学の面白さを語る  
鶴丸学長



プログラム前半の講演の部で鶴丸学長は、最新の研究や自身の経験談などを交えながら、考古学の面白さについて生き生きと語りました。

また、置戸が有数の黒曜石の産地であることに触れ、所山遺跡は「国の史跡に指定されてもおかしくない遺跡」とその学術的価値の高さについて強調。「これからも町民の皆さんと力を合わせて置戸の文化の育成、保存に尽力したい」と締めくくりました。

講演後は、札幌交響楽団コンサートマスターでヴァイオリニストの大平まゆみさんによるクラシックコンサートが開かれました。

札幌学院大学と置戸町は、同大が町内の遺跡で考古学実習を実施したことをきっかけに平成24年、地域交流協定を締結。同学術講演会は昭和52年に第1回を開催して以来38回を数えますが、今回は協定締結記念として、道内の町村部では初めての開催となりました。